

岡山市 第3期SDGs未来都市計画
(2024~2026)

岡山県岡山市

< 目次 >

1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態.....	2
(2) 2030年のあるべき姿.....	6
(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	8
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....	11
(2) 情報発信.....	17
(3) 普及展開性.....	19
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映.....	20
(2) 行政体内部の執行体制.....	21
(3) ステークホルダーとの連携.....	22
(4) 自律的好循環の形成.....	25
4 地方創生・地域活性化への貢献	26

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

① 地域特性

岡山市は、中国・四国地方のクロスポイントに位置し、広域高速道路網、鉄道網、航空網等、全国的にも優れた交通の広域拠点性を有する都市である。また、商業・業務、医療・福祉、教育・文化、コンベンション等の高次の都市機能が集積するとともに、市内には岡山大学をはじめ13の大学・短期大学に、約3万人の学生が集う、学術・研究の拠点都市にもなっている。

面積は約790km²と広大な市域を有し、自然環境は多様性に溢れ、北部の吉備高原とそれに連なる緑濃い山並や棚田の原風景、市街地周辺の操山・龍ノ口山、南部の干拓により生まれた広大な田園地帯、市域を貫流し瀬戸内海に注ぐ旭川・吉井川など、豊かな水と緑を感じながら、潤いのある暮らしを楽しむことができる。

このように、岡山市は市域の中に、都心、市街地、田園、沿岸部、中山間地域など多様性に富んだ地域を有する、自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる「住みやすさ」が魅力の都市である。

【産業の特色】

岡山市の産業別の事業所数は、「卸売業、小売業」が約3割を占め、「宿泊業、飲食サービス業」や「医療、福祉」の割合が比較的高く、第3次産業の比重が高い構造となっている。また、産業別の就業者数は、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「製造業」、「宿泊業、飲食サービス業」の順に多く、これらの産業が岡山市の雇用を支えている。

【農業資源】

岡山市では、多様な地形、充実した農業用施設、災害が少ない恵まれた気候風土のもとで、果樹、穀物、野菜等の多彩な農作物が多様な農業主体によって生産されており、総農家戸数が全国第5位（2020年）であるなど、全国有数の農業都市である。また、白桃やマスカット、ピオーネ等の果物は、市場から高い評価を得ており、都市ブランドの一つになっている。

【人口動態】

岡山市においても少子高齢化が進んでおり、2019年には自然減が社会増を上回り、人口減少局面を迎えている。（岡山県毎月流動人口調査結果）

また、岡山市の総人口は、2045年には69万人が予測され、2020年の72万人より約3万4千人減少する見通しである。その間、生産年齢人口比率と年少人口

比率は低下し続ける一方、高齢者人口比率は上昇を続け、2015年の約17万5千人から、2030年には約20万人となり、高齢化率は24.7%から27.8%まで上昇し、2045年には、32.7%となる見通しである。

【医療・福祉資源】

岡山市の医療資源及び介護資源は、人口10万人当たりの医師数2位、病院数で4位、高齢者人口1万人当たりのデイサービス事業所数は2位、通所リハビリ事業所数は2位となっており、市内に400床以上の急性期病院が6施設存在するなど、政令指定都市の中でも充実した資源を有している。

なお、厚生労働省「令和2年市区町村別生命表」によれば、岡山市の平均寿命は、政令指定都市の中で男性は3位（82.3歳）、女性は1位（88.4歳）である。

【まちづくり】

岡山市内では、都心を中心に市街地が放射状に広がる都市構造に合わせて、道路、鉄道、バス等の交通体系も、都心から各地域の拠点に向けて放射状に発達している。また、市街地の拡大にあわせ、外縁部や幹線道路の沿道でも市街化が進行し、低密度な市街地が広がっている。

【自然環境】

岡山市は人口70万を擁する大都市でありながら、市域の約7割を農地や里山が占め、岡山駅近くの用水路にホタル、都心部近郊の市街地に絶滅危惧種のアユモドキが生息するなど、多様で豊かな自然環境に恵まれている。

【ESDによる人材育成】

岡山市では、地域や社会の課題を自分事として考え課題解決を図る人材を育成するESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の取組を2005年に開始した。ESDはSDGsの全ての目標達成の基盤を作る重要な役割を担っており、公民館や学校を拠点に地域の多様なステークホルダーと連携してESD活動を推進している。

② 今後取り組む課題

2023年9月に開催されたSDGsサミットにおいて、SDGsのターゲットのうち進捗が順調なものは約15%に過ぎず、半分近くは不十分、約30%に至っては停滞・後退しており、2030年までのSDGs達成に向けた進捗が大きな困難に直面していることが示された。

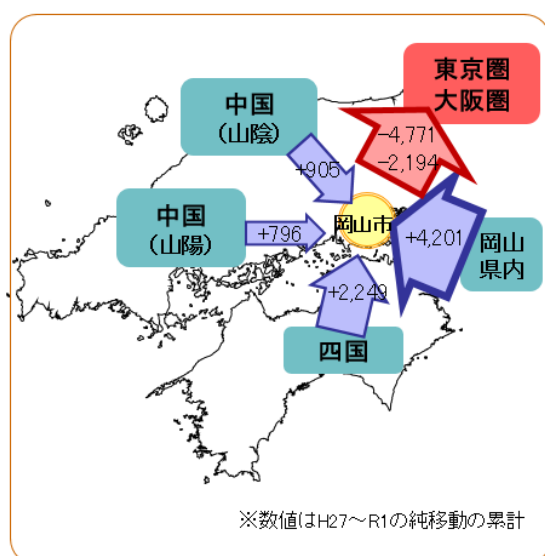
現在、日本国内においても、経済・社会・環境をめぐる広範な課題を抱えており、社会全体が複合的危機に直面している中、地方自治体における取組は、地域や社会課題の解決に資する重要な役割を担っている。

こうした状況の下、「誰一人取り残さない」社会を実現するためには、SDGsを広く浸透させ、岡山市の特性を發揮しながら、まちの活力を創出し、持続可能な社会づくりを加速化していく必要がある。

<経済>

人口減少や少子高齢化の加速による労働力不足、経営者の高齢化に伴う後継者不足、人口の東京一極集中の進行により、地域内の需要が減少し地域経済の活力低下が懸念される中、岡山市の優位性をいかした産業振興を進めることにより、地域経済を活性化し、安定した雇用を創出していくことが求められている。

また、生産年齢人口の減少に伴う、労働力や地域活動の担い手不足による地域経済の活力低下や地域コミュニティの機能低下をはじめ、高齢化による農業の担い手不足解消に向けた取組なども重要な課題となっている。



岡山市の人口移動の構図

(資料：岡山県「岡山県の人口の動き－岡山県毎月流動人口調査」)

<社会>

岡山市民の平均寿命は、男女ともに全国水準を上回っている一方、心身ともに自立し日常生活が制限されることなく生活できる期間である健康寿命は、男性は72.20歳、女性は75.03歳（いずれも2019年）で、全国水準を下回っている。このため、運動、栄養・食生活の改善、社会参加等の活動を総合的に進め、地域・職場等、社会全体で健康づくりを支援するとともに、市民一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組める環境整備を進めることにより、健康寿命の延伸を図っていく必要がある。

また、高齢化率は上昇することが見込まれており、その中でも75歳以上の後期高齢者は、2015年の約8万5千人から、団塊の世代が75歳以上となる2025年には約11万6千人へと大幅に増加し、医療や介護需要のさらなる増加や、これに伴う保険給付費の増大、保険料の上昇等が見込まれている。

一方、雇用や所得などの面で社会的に不利な立場にある高齢者や女性等に対し、

活躍できる社会環境を整備していく必要がある。社会の様々な場において、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識は依然として根強く残っている。女性の正規雇用率は20歳代後半でピークを迎えた後低下しており、その解消が課題となっている。

また、管理職に占める女性の割合は依然として低いため、企業に対して、働き方改革や職場の意識改革などの働きかけが重要となっている。

今後は、意欲ある高齢者の社会参加等を積極的に推進していくとともに、女性活躍の促進に向けた取組を一層進めていく必要がある。

<環境>

温暖化による気候変動など、地球規模での環境問題は、地方自治体にとっても重要な課題であり、岡山市では、2021年2月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行った。引き続き市民、事業者と連携しながら、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入促進による温室効果ガス排出量の削減や、温暖化の影響を回避・軽減する「適応策¹」等に一層取り組む必要がある。

また、岡山市では、「岡山市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」に基づき廃棄物の減量化・資源化を進めており、市民1人1日当たりのごみ排出量は家庭系ごみ、事業系ごみともに減少している。一方で、ごみ排出総量は減少傾向にあるものの、資源化量が減少傾向になっている。引き続き、市民、事業者と一体となって廃棄物の減量化・資源化を継続して推進することにより、循環型社会を構築していく必要がある。

一方、自然環境についても、社会活動の変化等により一部の地域で失われつつあるため、生物多様性の重要性に関する地域全体の理解を高め、市民や事業者、行政が互いに取り組むべき課題・目標を共有し連携を強化することが求められている。

更に、岡山市では低密度な市街地の拡大と相まって、過度な自動車依存が進んでおり、路線バスをはじめとする公共交通の衰退や温室効果ガスの排出等による地球環境問題など、様々な問題が生じている。そのため、公共交通を中心とした利便性の高い交通ネットワークを構築していく必要がある。

¹ 適応策とは、既に現れている、あるいは、中長期的に避けられない気候変動の影響に対して、自然や人間社会の在り方を調整し、被害を最小限に食い止めたり、逆に気候の変化を利用するための取り組みのこと。

(2) 2030年のあるべき姿

国連でのSDGs採択後8年間にわたり、多様なステークホルダー²により様々な取組や施策が実施されてきた。その過程において、市民の意識や生活様式、産業構造等、社会・経済活動のあり方が急速かつ大きく変容しようとしている。

こうした中、岡山市は2018年のSDGs未来都市選定を契機に、「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまち」の実現を目指し、市民の健康づくりの取組を中心に事業を実施してきた。さらに、持続可能なまちの実現に向けた次のステップとして、健康になった市民が社会で活躍できる環境が整備され、誰もが充実した市民生活を送りながら、将来にわたって住み続けたいと思えるまちの実現を目指した事業に取り組んできた。

今後、引き続き経済・社会・環境の面で「住みやすさ」に磨きをかけ、持続的に発展できる、活力と躍動感を創出するまちづくりに取り組んでいく。

1 市民の健康増進

岡山の保健医療の目指すべき2030年の将来像等を示した「Positive Health Okayama」の新たな健康の概念や一体的ケアなどが普及し、行政や保健医療関係者をはじめ、地域や企業などが一体となり、市民の健康な生活を支え、健康寿命の延伸を実現している。

2 健康、そして誰もが活躍できる社会へ

- ・ 起業家やスタートアップが活動しやすい環境が整う。
- ・ 付加価値の高い産業が創出・育成される。
- ・ 企業誘致の促進により、新たな雇用が創出される。
- ・ 移住・定住に係る取組を進めることで、若者の就職等による東京圏、大阪圏からの転入が促進され、岡山市への新たな人の流入が実現される。
- ・ 高齢者等に対する就労に向けた支援が行き渡り、生涯を通して活躍できる機会を得ることができる。
- ・ 農業の担い手不足や高齢化に対し、新規就農者増加などの取組が進み、農業を持続できる環境づくりが整備されている。
- ・ 地域活動の担い手として活躍する市民が増加し、誰もが生きがいを持って生涯現役で活躍できるまちが実現している。
- ・ 働く女性の活躍支援や離職した女性の就労支援が進むことにより、ライフステージのあらゆる場面で個性や能力が発揮できる。
- ・ 性別等にかかわらず家事・育児・介護を分担し、労働生産性を高め長時間労働が是正されたワーク・ライフ・バランスが実現されている。

²ステークホルダーとは、組織や団体、企業などの行動に対し、直接・間接的に影響を受ける利害関係者のこと。

3 誰もが「住みやすさ」を実感できるまち

【低炭素化された循環型社会の実現】

- ・太陽光発電等の再生可能エネルギーの普及や省エネルギーの取組等により、温室効果ガスの排出が削減された低炭素型のまちが実現している。
- ・市民や事業者が地球温暖化問題について理解を深め、省エネ・低炭素な製品やサービス、ライフスタイルを賢く選択することや、温暖化の影響を回避・軽減する「適応策」に取り組むなど、地球にも人にもやさしい持続可能な社会が実現している。
- ・廃棄物の減量化、資源化の取組が進み、安全かつ健全で快適な生活環境と環境負荷が低減された循環型社会が実現している。

【人と環境にやさしい交通ネットワークの構築】



- ・過度に自動車に依存する都市構造から脱却し、鉄道や路面電車、バス等の公共交通を中心に、徒歩や自転車等を組み合わせた、利便性の高い交通ネットワークが構築されている。
- ・移動手段を持たない高齢者をはじめとする交通弱者に対し、買い物や通院等、日常生活に必要な交通手段が確保されている。

【市民協働による快適な環境づくり】

- ・市民や事業者、行政が協働で環境保全活動に取り組み、多様な生物の生息・生育地である自然環境が保全され、自然と親しむことのできる場や機会が創出されるなど、自然環境との共生が促進されている。
- ・地域でESD活動に取り組む市民や団体が、教育や子育て、まちづくり、産業、女性活躍、医療・福祉、環境など身近な課題を解決するために活躍しており、未来にわたって地域を担う人材が育成されている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 3	指標:市の創業支援による創業者数	
	2018年: 22者	2030年: 50者
 9, b		

新たな雇用と成長を促す産業振興を推進するため、企業誘致の促進及び地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成を図るとともに、起業家等が活動しやすい環境を整え、創業や安定した事業継続を促す。また、岡山市への人の流れをつくるため、移住・定住支援施策を推進する。

(社会)



ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3, 4 3, 8	指標:健康寿命	
	2016年: 男性 71.7歳 女性 74.4歳	2025年: 男性 72.6歳 女性 76.2歳

運動習慣の定着化や食生活改善など、健康活動の習慣化を総合的に進め、社会全体で健康づくりを支援するとともに、市民一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組める環境整備を進めることにより、健康寿命の延伸を図る。


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 5	指標:生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数	
	2019年: 26人	2030年: 1,500人(累計)

多様な人材が活躍できるまちづくりを目指し、高齢になっても生涯現役で活躍し続けられるよう、就労や社会参加に向けた支援を行うとともに、働く女性のためのキャリアアップ支援や離職した女性の就労を支援するなど、高齢者や女性の活躍を推進する。また、企業に対しても、働き方改革や職場の意識改革を促進する。



(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7, 2 7, 3	指標: 温室効果ガス排出量	
	2017年: 6,119 千t-CO ₂	2030年: 3,497 千t-CO ₂
 13, 1 13, 3		

脱炭素社会をめざす環境にやさしいまちづくりを推進するため、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入促進による温室効果ガスの排出削減、気候変動対策等に取り組む。また、市民や事業者と一体となって廃棄物の減量化・資源化を継続して推進し、循環型社会を構築する。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 2 11, a	指標: 市民 1 人あたりの公共交通利用回数 (鉄道+路面電車+主要バス路線)	
	2016年: 80 回/年・人	2030年: 100 回/年・人

バス、路面電車、鉄道などの公共交通中心の利便性の高い交通ネットワークを構築するとともに、地域における生活交通の確保や自転車先進都市の取組推進を図り、人と環境にやさしいまちづくりの実現を図る。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 7	指標:岡山ESDプロジェクト参加団体数	
 17, 17	2020年: 317 団体	2030年: 480 団体

多様な組織で構成される岡山ESDプロジェクト参加団体との連携を拡大し、SDGsの達成に向けたESDに取り組むことにより、活動団体へのSDGsの理解促進や活動支援を図り、地域や社会の課題解決を自主的・積極的に取り組む組織や団体の更なる充実を図る。

2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

岡山市においても、人口減少や少子高齢化が加速する中、多様性と包摂性のある社会を築き、持続可能な発展と繁栄を実現していくとの観点から、SDGs達成に向けた取組を強化・加速するとともに、岡山市の特徴と強みを明確化していく必要がある。



今後、各部局の事業を通じたSDGs推進がますます重要になってくることも踏まえ、SDGs達成に向けた地域での取組に連携・協働していくとともに、岡山市の具体的な取組を推進していきながら、持続可能なまちづくりをリードしていく。

特に、持続的な成長と住み続けられる社会環境を実現していくためには、地域が直面する様々な社会的・経済的課題や地球規模課題の解決が必要であり、経済面では、地域経済の活性化に向けて、新たな雇用と活力を生み出す戦略的な産業振興に取り組む。

また、社会的に注目が集まる環境問題の解決に向けた取組を積極的に実施し、脱炭素社会や循環型社会の構築を図る。

更に、2024-2026年に向けては、健康になった市民が社会で活躍できる環境を整備し、経済・社会・環境の面で「住みやすさ」を実感できる持続可能なまちの実現を目指す。

① 産業の創出・育成・強化

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 8 働きがいも 経済成長も 8, 3	指標：市の創業支援による創業者数
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 9, b	2018年： 22者 2026年： 50者

【創業支援事業】

新たな経済成長の担い手として期待されるスタートアップ等の創出・成長を支援するため、創業・起業に関心を持つ多様な人々が交流できる拠点「ももたろう・スタートアップカフェ」を金融機関や経済団体等と運営委員会を組織して運営するなど、起業家が創業しやすい環境づくりを進める。



【新産業創出・育成事業】

地域の強みや特性をいかし、産学官金の幅広い交流・連携を通じて、付加価値の高い新産業の創出・育成を図る。

【企業誘致促進事業】

市内外の人材の移住・定住につながる魅力ある雇用の創出を図るため、幅広い業種の企業の立地を推進する。

② 移住・定住の促進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 8	指標: 移住定住支援により移住した人数	
	2019年: 30人	2026年: 90人
 11, 3		

【移住定住促進事業】

- ・移住支援専用ウェブサイトの充実などにより、移住先としての岡山市の魅力や特色を発信し、移住希望者のニーズに沿った情報を提供する。
- ・民間の移住者支援団体等で構成する「岡山市移住・定住支援協議会」と連携し、移住への支援体制を充実させるとともに、移住相談会やセミナー等を開催し、移住・定住を促進する。


③ 活力ある農業の振興

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 3	指標: 新規就農者数	
	2019年: 34人	2025年: 50人

【農業の担い手の確保・育成事業】

岡山市就農サポートセンターの活用を推進するほか、就農相談会等による新規就農相談、就農への不安解消等を目的とした短期体験、関係機関と連携した実践的な農業技術や経営知識習得のための研修実施など、就農希望者の状況に応じて支援することで新規就農者の増加を図る。

④ 健康寿命の延伸に向けた健康づくり


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3, 4 3, 8	指標: 市と連携して市民の健康づくりに取り組む企業等の数	
	2023 年: -社	2025 年: 250 社
	指標: 自らの健康リスクを把握している人の割合(国保特定健診受診率)	
	2018 年: 30.5%	2026 年: 34.6%

【健康ポイント事業】

「病気や障害などの有無に関わらず、生きがいを持ちよりよく生きること」を「健康」と再定義し、運動、栄養・食生活、社会参加に関する行動にポイントを付与し、参加者が日常生活の中で「健康」につながるサービスを無意識のうちに利用でき、無理なく続けられる環境を整えることを目指す。実現に向け、健康増進に資する本市の他の施策や、他の行政機関などの施策との連携はもちろん、地域の様々な分野の民間事業者等とも一緒になって取り組んでいく。

※R4 年度デジタル田園都市国家構想交付金（横展開型）採択事業



⑤ 生涯現役社会づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 5	指標: 生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数	
	2019 年: 26 人	2026 年: 900 人(累計)

【生涯活躍就労支援事業】

高齢者等のニーズに合った就労や社会参加のマッチング支援と、企業等の高齢者雇用に対する理解を促進し、生涯生きがいを持って活躍できる社会の実現を図る。



⑥ 女性の活躍・男女共同参画の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5 ジェンダー平等を 実現しよう 5, 1	指標：市内企業における管理職（課長相当職以上）に占める女性の割合	
 8 働きがいも 経済成長も 8, 5	2018年： 7.7%	2025年： 15.0%

【女性が輝くまちづくり推進事業】

- ・企業の経営者や男性管理職等を対象にした女性活躍及びワーク・ライフ・バランス推進に向けた講演会やセミナーを開催するとともに、離職した女性のスキルアップや再就職支援、女性社員のキャリア形成の支援を行う。
- ・女性活躍及び仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいる企業の表彰・認証を行う。




⑦ 再生可能エネルギーの活用と温室効果ガスの排出削減

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 7, 2 7, 3	指標：温室効果ガス排出量	
 13 気候変動に 具体的な対策を 13, 1 13, 3	2017年： 6,119 千t-CO ₂	2026年： 4,435 千t-CO ₂

【地球温暖化対策事業】

- ・脱炭素社会の実現に向け、市内の住宅・事業所への、創エネ・省エネ・蓄エネ機器の導入に対する補助を行うスマートエネルギー導入促進事業を実施する。
- ・気候変動の影響を回避・軽減する「適応策」に、市民・事業者と協働して取り組む。
- ・プラスチックの焼却により生じる温室効果ガスを抑制するため、プラスチック資源のリサイクルを促進する。

⑧ ごみの減量化とリサイクルの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 6	指標: ごみの資源化率	
	2019年: 27.4%	2025年: 31.1%
 12, 3 12, 5	指標: 市民1人1日当たりのごみ排出量	
	2019年: 842g	2025年: 754g
 14, 1		

【資源循環指導・啓発事業】

市民や事業者の4Rに対する意識・行動改革を促す情報提供や、分別アプリ・講座等による普及啓発を実施する


【減量化・資源化対策事業】

資源回収活動を行う団体への支援や生ごみ削減活動の促進、資源化物の拠点回収を実施する。

【SDGs 守ろう！海・川プロジェクト】

海・川ごみの削減に向け、岡山連携中枢都市圏の圏域自治体と連携し、市民や企業が参加する海・川ごみ回収のイベントを支援する。あわせて海ごみ問題に対する意識向上を図るため、フォーラムやパネル展を開催し、啓発活動を行う。



⑨ 生物多様性の保全と環境との共生

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 15, 5	指標: 身近な生きものの里認定地区数	
	2019年: 17地区	2026年: 25地区

【自然保護事業・身近な生きものの里事業】

身近な場所で多様な自然風景や野生生物に触れ合える環境を保全し、次世代に引き継いでいくため、科学的な知見と多様な主体の参画により策定した「岡山市生物多様性地域戦略」に基づき、地域住民、企業、NPO等と連携・協働し、身近な生きものや希少野生生物の保護等を戦略的に推進する。


⑩ 人と環境にやさしい交通ネットワークの構築

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7, 1  11, 2	指標: バス路線の主要渋滞箇所数	
	2019年: 38箇所	2026年: 34箇所

【低炭素型の交通ネットワーク構築】

車優先から人優先のまちづくりを進める中で、低炭素型の交通体系を目指し、岡山駅への路面電車の乗り入れ、複雑なバス路線網の見える化やバス車両及び停留所のバリアフリー化等のバスの利用環境の向上、自転車通行空間の整備やコミュニティサイクル「ももちやり」の利用促進等の自転車先進都市おかやま事業等に取り組み、環境にやさしい交通ネットワークの構築を図る。

⑪ ESD地域拠点におけるESD活動の広がり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 7	指標: 岡山ESDプロジェクトにおける地域拠点でのワークショップ開催件数	
	2019年: 20件	2026年: 150件(累計)

公民館やユネスコスクールなどのESD地域拠点において、岡山ESDプロジェクトの取組で育成されたコーディネーターの活躍等により、持続可能な社会づくりに向けた地域課題の解決や将来ビジョンを話し合うワークショップ等の学びの機会を創出し、ESD活動を広げることで、SDGsの達成につながる市民の意識や行動の変容を図っていく。

(2)情報発信

(域内³向け)

日本におけるSDGsの認知度は国際社会との比較においても大幅に向上しており、SDGs採択後8年間で、国内の認知度が約9割に達するなど、これまでの啓発・広報は大きな効果を挙げてきた。岡山市内においても高い水準で認知度・理解度が広がっており、こうした状況がSDGs達成に向けた取組を大きく進展させている。

また、岡山市の特色として、2005年から継続してESD活動を推進しており、様々なステークホルダーと連携して情報発信を行うなど、ESDやSDGsの普及拡大に努めてきた。これまでのESDの取組の成果を活かし、岡山地域の市民や活動団体に対して、積極的に以下の取組を行う。

○ 未来わくわくSDGsフェスタ

市民に対するSDGsの理解を深めていくための普及啓発イベントを、多くの市民が集う大型商業施設等において、関連組織等と連携して実施する。「持続可能な社会をつくるためにできること」をテーマに、日々の暮らしとSDGsの関わりについての新たな気づきを得て実践活動に繋げていくとともに、市民団体や学校等のSDGs達成につながる活動を発信する。

内容：SDGs達成につながる取組発表や持続可能な社会づくりを学ぶステージイベント・ワークショップ、SDGsパネル展、など。

○ SDGsフォーラム in 岡山

持続可能な社会づくりに向けたSDGsの目標達成への取組を学び合い、各ステークホルダーによる今後のアクションにつながるアイデアを共有するとともに、更なる連携・協働を促進することを目的に、フォーラムを開催する。海ごみ削減など毎年多様なテーマを取り上げて開催を計画する。

○ ESDカフェ×SDGsシリーズ

各地域で持続可能な社会づくりに取り組む様々な分野の方々を講師に迎えて、各種テーマに基づいた活動の発表や参加者との意見交換などの交流を行う。活動内容をSDGsの目標に関連付けながら、市民が気軽に参加できる、ESDやSDGsの学びの機会として、2011年からほぼ毎月のペースで開催している。

○ ホームページ「おかやまSDGs・ESDなび」での情報発信

岡山地域において課題解決に取り組む団体等を紹介するホームページ「おかやまSDGs・ESDなび」を活用し、SDGsの情報発信を図っていく。

内容：各ステークホルダーの活動がわかるイベントカレンダー、岡山市や岡山ESD推進協議会の取組紹介など

(域外³向け(国内))

- 岡山市が加盟するイクレイ(持続可能性を目指す自治体協議会)及び全国生涯学習市町村協議会の一員として、関連会議や情報交換ツールを活用し、SDGsに係る全国の優れた事例の学び合いや、岡山地域の取組の情報発信を図る。
- 岡山市と県内周辺市町の8市5町で連携協定を結び、地方創生につなげる「岡山連携中枢都市圏事業」において、連携施策のひとつとして、「ESDによる人づくりとネットワークの推進」を規定している。これを活用して、周辺自治体に対し、SDGsの理解促進と活動の情報発信を行う。

(海外向け)

- 「ESDの地域拠点」(RCE)、ユネスコ学習都市及びイクレイのネットワークを活かし、関連国際会議や加盟都市間の交流、各ネットワークが構築している情報発信ツール等を通じて、積極的にSDGsに係る世界の優れた事例を学ぶとともに、地域内の優れた事例の情報発信を図る。
- 岡山市では2015年から、世界の優れたESD活動を顕彰する「ESD岡山アワード」を実施しており、引き続き海外の多様なステークホルダーと連携して、SDGs達成に貢献する世界の優良事例を継続して国内外に発信していく。また、ESDを推進するユネスコグローバルネットワークの一員として、関連する国際会議や情報交流ツール等を活用して、積極的にSDGsに係る世界の優れた事例を学ぶとともに、岡山地域内の優れた事例の情報発信を図る。

³域内・域外とは、岡山市域内または岡山市域外を表す。

(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

- 地方自治体は、SDGs達成に向けた取組を更に加速化させるため、地域の優良事例を他の地域へ積極的に発信・共有していくことが求められている。岡山市では、持続可能な社会づくりを教育の視点から取り組むESD活動を2005年から継続して取り組んでおり、こうしたESD活動をベースとしたSDGsの推進に関心のある自治体や県外の大学、団体等に対し、視察来訪時の説明などで発信・共有を図る。
- 岡山県内の4つのSDGs未来都市(岡山市・真庭市・倉敷市・西粟倉村)で「岡山SDGs未来都市連絡協議会」を設立し、4都市のSDGsの取組を体感できる「おかやまSDGsオーダーマイドツアー」を実施している。各都市の取組の更なる推進に加え、取組が見える化し発信力を高めることで、他地域への横展開を図っていく。
- 全国ESD・SDGs自治体会議やESD活動支援センター、ユネスコスクール高校ネットワーク等、これまでのESD活動により構築してきたネットワークを活用し、全国会議やイベント等に参加して取組を発表することで普及展開を図る。
- 新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大以降、オンライン会議の場が増えており、特に国際会議への参加が容易となっている。こうした機会を活かし、オンラインを活用して岡山のESDやSDGsの取組の情報発信を行うことで普及展開を図る。

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 岡山市第六次総合計画

岡山市の都市づくりを総合的・計画的に進めていくための指針である第六次総合計画後期中期計画(2021年度～2025年度)において、総合計画とSDGsの関係性を示すとともに、施策分野等にもSDGsを反映させた改定を行った。

2. 第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

岡山市の地方創生の実現を図るための総合戦略(2021年度～2025年度)において、総合戦略とSDGsの関係性を示すとともに、施策分野等にもSDGsを反映させた改定を行った。

3. 第2次岡山市環境基本計画

2025年度を目標年次とし、岡山市の環境施策を総合的・計画的に推進するもので、SDGsの要素を踏まえた施策展開をしている。2020年度に改定し、環境施策ごとのSDGsマッピングを行うなど、よりSDGsの要素を取り入れた内容で作成し、取組を推進している。

4. 岡山市消費者教育推進計画

岡山市における消費者教育を体系的に推進していくために策定された消費者教育推進計画の中で、SDGsをエシカル消費と関連づけて明記し、取組を推進している。

5. 岡山市立公民館基本方針

公民館における教育活動や地域づくり等の活動に関わる市民や多様な主体と協働して公民館活動を推進するために2019年3月に策定されたものであり、岡山市の公民館が目指すべき概ね10年後(2030年)の姿とそのための課題や取組を示したもので、目指す公民館の姿の中にSDGsとESDを位置づけ、持続可能な地域社会づくりに貢献する公民館を目指すこととしている。

6. 岡山市地球温暖化対策実行計画

市の環境に関する都市づくりの方向性を示す「第2次岡山市環境基本計画」における地球温暖化対策分野の個別計画として策定したもの。計画の中で、SDGsについて紹介するとともに、各取組がSDGs17の目標のいずれを目指すものかを記載するなど、SDGsの要素を取り入れ、取組を推進している。

7. 岡山市食育推進計画(第4次)※令和6年3月改定予定

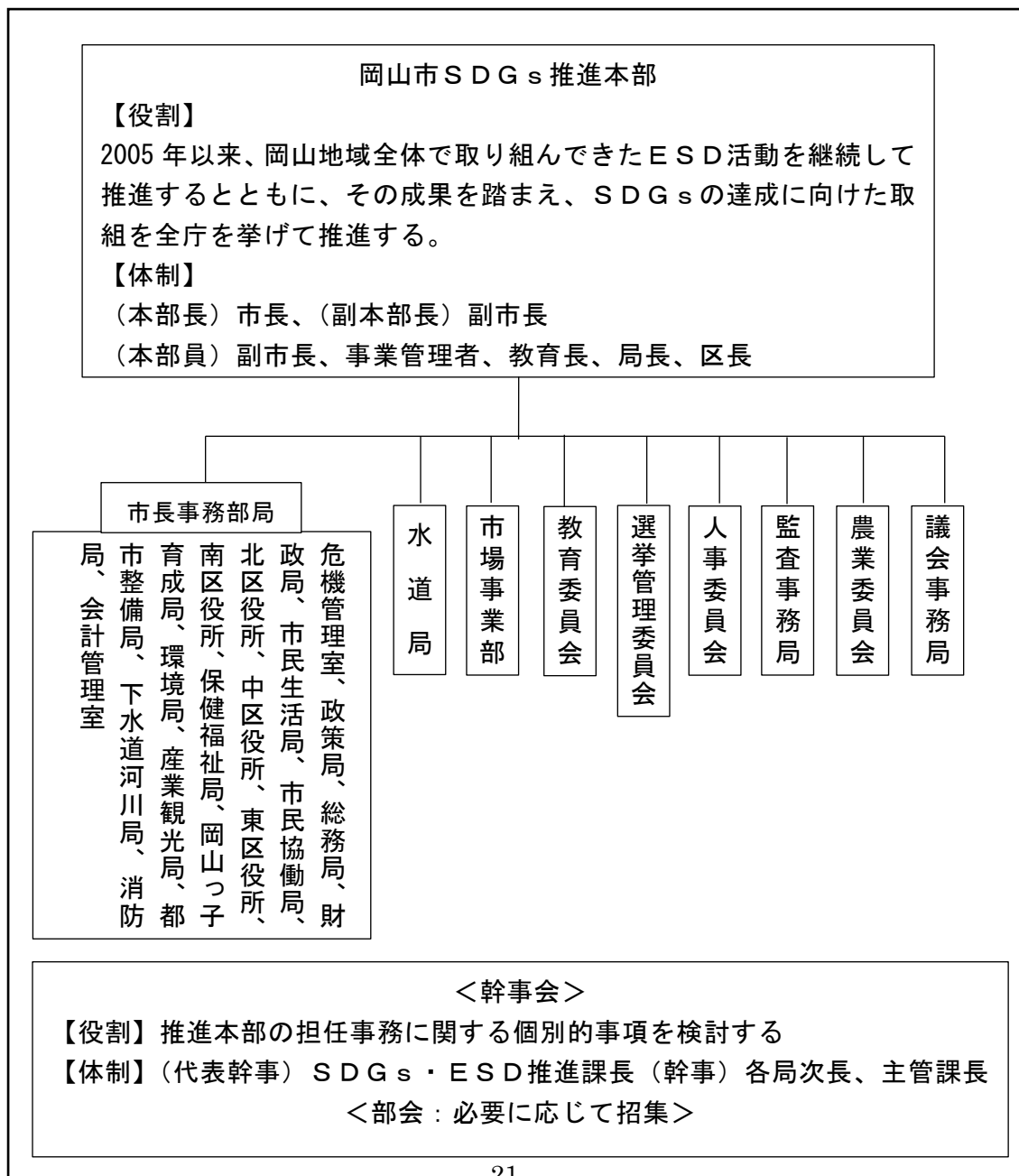
食育基本法の目的・基本理念を踏まえ、同法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画。食の問題は、持続可能な社会づくりの様々な問題と関連していることから、SDGsの視

点を取り入れた取組を進め、市民一人ひとりの行動につなげていくことが重要と記載。

(2) 行政体内部の執行体制

岡山市のSDGs達成に向けて、市全体で取り組むための全庁的な体制を構築するため、市長をトップとしたSDGs推進本部を設置した。(2018年7月設置)

推進本部では、主にSDGsやESDに係る情報共有や事業報告に関するものの他、今後の課題や取組計画等について検討、協議する。また、SDGs未来都市計画における各種事業などの個別的事項を検討するため、推進本部に幹事会を置き、必要に応じて会議を開催する。その中で、専門的な事項や特に重要な事項について調査検討する場合は、必要に応じて関係職員で構成する部会を置く。



(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

① 岡山ESD推進協議会

SDGsを推進する際には、地域で活躍する多様なステークホルダーの主体的な参加を促し、相互に連携することで個別の取組を全体につなげていくことが重要である。

岡山ESD推進協議会(事務局：岡山市)は、地域の各ステークホルダーが連携してESDに取り組むことにより、地域全体の持続可能な社会づくりに関する理解を深め、主体的な実践活動を進めていくために設けられたネットワーク組織で、市民団体、経済団体、教育機関、大学、企業、NPO、自治体等の多様な組織が参画している。(2023年11月末現在377団体)

同協議会は、SDGs達成に向けた地域全体のESD推進の方向性を規定した岡山ESDプロジェクト基本構想に基づき、人材育成や活動助成、啓発活動等を通じて、各ステークホルダーの活動を支援するとともに、持続可能な社会づくりの取組の広がりや質の向上を図っている。

今後、岡山市は同協議会及び構成各組織・団体との連携を更に強化し、ESDを活用したSDGs達成につながる様々な事業を実施することで、各ステークホルダーの連携及び協働のハブとしての役割をより一層効果的に果たしていく。

② 岡山大学

岡山大学は、これまでESDに取り組んできた実績をふまえて、SDGs達成の観点を取り入れた大学運営を全学的に推進しており、2017年には国が実施した「第1回ジャパンSDGsアワード」の特別賞を受賞するなど、積極的にSDGsを推進している。

岡山大学が有する専門知識や学生も含めた人材等を活かして、SDGs達成に向けた教育をテーマとした国際会議を連携して開催するなど、大学の専門性を有効活用したSDGsの取組を推進していく。

③ 岡山経済同友会

2017年にSDGsの要素を盛り込んだ「30年後の同胞へのメッセージ」を作成するなど、早くから企業がSDGsに取り組む重要性を理解し、研修会や視察を行うなど、岡山県内の企業をリードする取組を行っている。

④ おかやま円卓会議・おかやま地域発展協議体・おかやまSDGs研究会

2016年に岡山地域の課題解決の方向性や具体的なアクションを協議する場として、産官学民が連携した「おかやま円卓会議・おかやま地域発展協議体」が発足し、その後、岡山市をはじめとする県内のSDGs未来都市や大学、経済団体、企業等で構成する「おかやまSDGs研究会」が2018年に立ち上がった。

このSDGs達成に取り組む産官学民の連携組織により、岡山県内のSDGs達

成に向けた優良事例を顕彰する、「おかやまSDGsアワード」を2020年度から開始することとなった。岡山県内という広範囲な連携組織のメリットを活かし、各地域の取組の見える化とSDGs活動の底上げを図り、地域の活性化につなげていく。

⑤ 生物多様性のための30by30アライアンス

30by30とは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする世界目標である。30by30達成に向けた取り組みをオールジャパンで進めるため、企業・自治体・団体等による有志連合として発足した(2022年)。参加者は、30by30の達成に向けた保全地域の確保または保全活動の支援に取り組み、その内容を発信する。

2. 国内の自治体

① RCE(ESD地域活動拠点)認定地域内の各構成国内自治体

RCEとはESDを推進するための地域拠点として国連大学が認定したもので、日本国内には、岡山市を含め北九州市や横浜市、大牟田市など8地域がRCEに認定されている。認定地域間の情報共有や優良事例の学び合いと、これに基づく各地域内の実践等を目的としており、これまでのRCE構成自治体のつながりを踏まえ、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

② 岡山連携中枢都市圏の構成各自治体(8市5町)

岡山連携中枢都市圏については、近隣市町が連携し、共通する課題の解決に向けた連携施策について検討するために設置されている。この圏域における人口は116万人、面積は3,764k㎡と、岡山県人口の6割、岡山県面積の5割を占めており、この連携組織の取組項目の一つにSDGsを含めることで、効率的にSDGsの県内での普及展開を図る。また、海ごみ・プラスチックごみ削減をテーマに各市町と連携して取り組むことで、圏域全体で社会問題の解決を図っていく。

③ イクレイ(持続可能性を目指す自治体協議会)の各構成国内自治体

本組織は、国内外の持続可能な地域づくりを推進していくことを目指し、現在24自治体が加盟していることから、SDGsの取組についても連携した「学び合い」を図っていく。

④ 全国生涯学習市町村協議会構成各自治体

本組織は、地域をあげた学び合いにより、よりよいまちづくりの推進を目指しており、現在、岡山市を含め50自治体が加盟している。今後も「持続可能な都市」実現のために、SDGsの取組についての連携した「学び合い」を図っていく。

3. 海外の主体

① グローバルRCE（ESD地域活動拠点）ネットワーク

本ネットワークは、現在、世界全体で188地域がRCEに認定されており、認定地域間の情報共有や優良事例の学び合いと、これに基づく各地域内の実践等を目的に、SDGs達成に向けたESDを推進している。特に、アジア太平洋RCEネットワークでは、リモート会議や国際会議を定期的を開催するなど、活発な連携が図られており、これまでのRCE同士のつながりを活かし、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

② イクレイ（持続可能性を目指す自治体協議会）ネットワーク

本組織は、2,500を超える国内外の自治体が連携して、各地域の取組を積み重ね、持続可能な社会を実現していくことを目指しており、環境問題の解決をはじめ、SDGsの達成につながる活動を行っていることから、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

③ ユネスコ学習都市に関するグローバルネットワーク

本組織は、全ての市民が学校教育や社会教育を通じて生涯にわたり学び、その能力や知識を社会づくりに活かしていくことにより、持続可能な学習都市の実現を目指している。活動指標の中に、各都市の持続可能性に係る事項が多く含まれており、ユネスコ学習都市賞を受賞した岡山市としては、積極的に本ネットワークに参加し、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

④ ESD for 2030 グローバルネットワーク（ESD-Net 2030）

本ネットワークは、ユネスコが策定した2020年から2030年におけるESDの国際的な実施枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」のフレームワークを支援し、加速するための世界的なネットワークである。ESDの強化とSDGs達成への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指している。岡山市は過去にユネスコ／日本賞を受賞しており、積極的に本ネットワークに参加し、ESDやSDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

(4) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

SDGsの達成に向けては、地域の主体性を基本として、地域資源を持続的に活用して経済・社会・環境を統合的に向上させていく取組を生み出す必要がある。合わせて社会課題を解決し続ける自立した地域をつくとともに、地域の個性を活かして相互に支え合うネットワークを形成する自立・分散型のまちづくりが望まれる。

また、民間ビジネスにおいては、金融市場におけるSDGsの意識の高まりとも相まって、SDGsを経営に統合する企業が着実に増加しており、地方創生SDGs金融⁴を通じた自律的好循環を形成するためには、地域事業者等を対象にした登録・認証制度の構築が有効である。

こうした考えのもと、岡山市では令和4年度にSDGs登録制度である「岡山市SDGs推進パートナーズ」を設立し、第1期の募集で280事業者を登録したところである。本制度を通じて、SDGsに積極的に取り組む地域事業者の活動を「見える化」し、企業ステイタスの向上等につなげ、地域金融機関からの投融資や新たな人材確保の機会拡大を図っていく。

更に、今後も引き続き登録事業者の募集を継続して、SDGsに取り組む事業者の増加や事業の拡大に取り組み、地域経済の活性化と社会課題の解決を図っていく。

(将来的な自走に向けた取組)

SDGs推進に向けた地域レベルでの官民連携の枠組みを構築し、SDGsに取り組む地域事業者の生産性向上、地域経済の持続的成長を図るため、金融機関による多様なサービス提供を促す必要がある。

また、経済団体においても、個々の事業を通じてSDGs達成に貢献する方向性がますます明確化され、地域の経済界が一体となって社会課題の解決に貢献する動きが広がっている。

そこで岡山市では、令和5年度に金融機関・経済団体等から構成される「岡山市SDGs推進パートナーズ応援団」を設立し、岡山市SDGs推進パートナーズ制度の更なる普及と、登録事業者への個別・具体的な支援を提供していく。

今後も、岡山地域の金融機関など多様なステークホルダーと連携して事業者等の取組を支援することで、更なるSDGsの推進及び事業者の将来に向けた自走につなげ、自律的好循環の形成を図る。

⁴地方創生SDGs金融とは、SDGsに取り組む地域事業者と、その取組に対して積極的に支援を行う地域金融機関等を、地方公共団体がつなぐことにより、地域における資金の流れを活性化させること。

4 地方創生・地域活性化への貢献

SDGsは地方創生の旗印として広く位置づけられており、SDGs未来都市や地方創生SDGs官民連携プラットフォーム、地方創生SDGs金融等の多様な制度的枠組の下、各地域の特性に応じた様々な取組が急速に進展している。

また、SDGs達成に向けた取組を自ら推進する自治体の数も全体の7割に達するなど、地方レベルにおいてSDGsの幅広い浸透が進んでいる。

こうした中、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会を実現するためには、地域課題の解決を行政施策に落とし込むなどして包括的にSDGsを推進し、まちの活性化と持続的な成長を図っていく必要がある。

岡山市においては、SDGs未来都市の取組としてテーマに掲げた「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまち」の実現を目指し、引き続き市民の健康づくりの習慣化や健康寿命の延伸等に取り組むとともに、高齢者が生涯生きがいを持って活躍できる環境を整備していく。

「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまち」の実現には地域経済活性化も重要であり、産業の創出・育成・強化の取組として、創業支援事業や新産業創出・育成事業等を実施し、新たな雇用と経済活力を生み出していく。

また、女性が輝くまちづくり推進事業の実施により、社会での女性活躍が促進され、働きやすい環境整備と多様性に富んだ活力ある地域社会を実現していく。

社会問題となっている人口減少や少子高齢化への対応も急務となっており、若者の岡山への移住定住を促進する取組により、岡山への新たな人の流れが創出されるとともに、高齢化に伴う農業や地域活動の担い手不足に対しても、新規就農者の確保や健康を保持する高齢者が生きがいを持って活躍する場の創出に取り組む。また、SDGs達成に向け、農村や里山の果たす役割も重要であり、農村部など周辺地域の維持等に取り組む、地域活性化に繋げていく。

一方、健康になった市民が充実した市民生活を送りながら、将来にわたって住み続けたいと思える「住みやすさ」を実感できる環境整備も必要である。

市民生活に密接する、人と環境にやさしい低炭素型の交通ネットワークの構築は、温室効果ガスの排出が削減され、地球環境問題の解決に貢献するだけでなく、まちの賑わい創出にもつながり、地域活性化が図られる。

また、社会全体の課題である、脱炭素社会・循環型社会の構築については、再生可能エネルギーの活用促進やごみ減量化とリサイクル推進などに積極的に取り組むことで、安全かつ健全で快適な生活環境の構築を図り、「住みやすさ」に磨きのかかった、持続的に発展できるまちを実現する。

2019年の国連総会で採択された「ESD for 2030」の枠組みにおいて、SDGsの17全ての目標実現に向けた教育の役割が強調され、ESDが全ての持続可能な開発目標の成功への鍵であることが確認されている。

岡山市は2005年から継続してESDに取り組んでおり、多様なステークホルダー

による持続可能な社会づくりの取組が浸透している。また、2021年に策定した「岡山ESDプロジェクト2020-2030基本構想」において計画したESDの視点を取り入れたSDGs達成に繋がる取組について、引き続き地域と連携して実践していく。

こうしたESDによる学びと実践、人材の育成を通じ、ESD先進都市として、これまでの地域コミュニティにおけるESD活動の成果を活かしながら、SDGs達成に向けた経済・社会・環境の活動を活性化して、持続可能な社会の構築を図っていく。

岡山県岡山市SDGs未来都市計画（2024～2026）

令和6年 3月 策定